

**Works
Report**

2022

大手企業における 若手育成状況調査 報告書

■ 本調査の目的

大手企業（従業員規模1000人以上）における新入社員をはじめとする若手社員の就業状況及びキャリア形成状況を検証し、現状の育成・定着に向けた課題を明らかにする。

■ 目次

- 1-1) 回答者の基本属性
- 1-2) 主対象の基本属性
- 2-1) 社内の育成など制度の有無認識（第一時点調査）
- 2-2) 社内の育成などの取り組みの実施有無認識（第一時点調査）
- 2-3) 初任配属についての状況（第一時点調査）
- 2-4) 配属・研修など施策の満足度（第一時点調査）
- 2-5) 職業生活の状況認識（第一時点調査）
- 2-6) 職場でのコミュニケーション（第一時点調査）
- 3-1) 現在取り組んでいる活動（第一時点調査）
- 3-2) 社外での活動についての認識（第一時点調査）
- 4-1) 職場の上司・先輩との関係①（第一時点調査）
- 4-2) 職場の上司・先輩との関係②（第一時点調査）
- 5-1) 職場での労働負荷（第一時点調査）
- 5-2) 職場の心理的環境（第一時点調査）
- 5-3) 職場の心理的安全性（第一時点調査）
- 5-4) 職場への認識（第一時点調査）
- 6) ストレスや不安感（第一時点調査）
- 7) キャリアの志向性（第一時点調査）
- 8) リアリティショック（第一時点調査）
- 9) 初職の会社への評価（第一時点調査）
- 10) 学生時代の社会経験（第一時点調査）
- 11) 職場での成長実感など（第二時点調査）
- 12) いきいき働く（第二時点調査）
- 13) キャリアの進捗への満足度（第二時点調査）
- 14) ワーク・エンゲージメント（第二時点調査）
- 15) キャリアに対する不安感（第二時点調査）
- 16) ロールモデル（第二時点調査）
- 17) いつまでその会社で働きたいか（第二時点調査）
- 18) 労働時間、年収、リモートワーク（第二時点調査）

■ 調査概要

本調査はコモンメソッドバイアスを排除する観点で、同一回答者に対し調査項目を二時点に分けて実施した。

第一時点調査では主として学生時代の状況や現在の就労状況などの説明変数となりうる項目、第二時点調査では主としてキャリア観やワーク・エンゲージメント、企業への評価などの被説明変数となりうる項目を調査している。

調査期間：2022年3月18日～22日（第一時点）、同3月25日～28日（第二時点）

目的：大手企業の若手社員育成に関する課題の所在を明らかにする

調査方法：インターネットモニター調査

調査対象：従業員規模1000人以上の企業に在籍する大学卒・大学院卒の正規社員、
新卒後入職から3年目までの者(主対象)。

※比較の観点から、同様の条件で34歳以下で2010年以降2018年までに初職に入職した者の回答も回収している

サンプルサイズ：2985(第一時点/うち主対象952)

2527(第一・第二時点/うち主対象759)

注：本報告書では総務省人口推計をもとにウェイトバックを行い集計を実施している。

注：本報告書の集計においては、小数点第二位以下を四捨五入しているため合計が100%とならない場合がある。

1-1) 回答者の基本属性

・本調査の回答者の年代・性別、未既婚などの属性情報を以下に記述した。

年代

	第一時点		第二時点	
	度数	%	度数	%
2019年～2021年に就職（主対象）	962	32.2	759	30.0
2010年～2018年に就職 & 29歳以下	1,134	38.0	975	38.6
2010年～2018年に就職 & 30-34歳	889	29.8	793	31.4
Total	2,985	100.0	2,527	100.0

年代×性別

	第一時点			第二時点		
	男性	女性	上記以外	男性	女性	上記以外
2019年～2021年に就職（主対象）	36.4%	62.9%	0.7%	38.5%	60.7%	0.8%
2010年～2018年に就職 & 29歳以下	36.6%	63.3%	0.1%	38.6%	61.4%	0.0%
2010年～2018年に就職 & 30-34歳	50.5%	49.5%	0.0%	51.7%	48.3%	0.0%

※P. 6以降の集計では性別を人口動態と合致するようウェイトバックして実施している

年代×未既婚

	第一時点		第二時点	
	結婚している	結婚していない	結婚している	結婚していない
2019年～2021年に就職（主対象）	6.7	93.4	7.0	93.0
2010年～2018年に就職 & 29歳以下	30.2	69.8	30.9	69.1
2010年～2018年に就職 & 30-34歳	51.4	48.6	51.5	48.6
Total	28.9	71.1	30.2	69.9

年代×初職在籍・退職

	第一時点		第二時点	
	初職在籍	初職退職	初職在籍	初職退職
2019年～2021年に就職（主対象）	82.2	17.8	82.1	17.9
2010年～2018年に就職 & 29歳以下	67.2	32.8	66.8	33.2
2010年～2018年に就職 & 30-34歳	69.3	30.7	69.4	30.6

1 - 2) 主対象の基本属性

・本調査の主対象（2019年～2021年に就職）の入社年、学歴、業種の属性情報を以下に記述した。

初職入社年

	第一時点		第二時点	
	度数	%	度数	%
2021年	297	30.9	234	30.8
2020年	306	31.8	246	32.4
2019年	359	37.3	279	36.8
Total	962	100.0	759	100.0

学歴（大学卒・大学院卒）

	第一時点		第二時点	
	度数	%	度数	%
大学卒	829	86.2	655	86.3
大学院卒	133	13.8	104	13.7
Total	962	100.0	759	100.0

所属企業の業種

	第一時点		第二時点	
	度数	%	度数	%
農林漁業	4	0.4	4	0.5
建設業	38	4.0	31	4.1
製造業	123	12.8	96	12.7
電気機械器具製造業	5	0.5	5	0.7
電気・ガス・熱供給・水道業	16	1.7	15	2.0
情報通信業	85	8.8	69	9.1
運輸業	47	4.9	38	5.0
卸売・小売業	61	6.3	49	6.5
飲食料品小売業	13	1.4	10	1.3
金融・保険業	104	10.8	72	9.5
不動産業	18	1.9	17	2.2
飲食店、宿泊業	3	0.3	3	0.4
医療・福祉	157	16.3	115	15.2
教育・学習支援	29	3.0	24	3.2
サービス業	87	9.0	67	8.8
公務	119	12.4	104	13.7
他に分類されないもの	53	5.5	40	5.3
Total	962	100.0	759	100.0

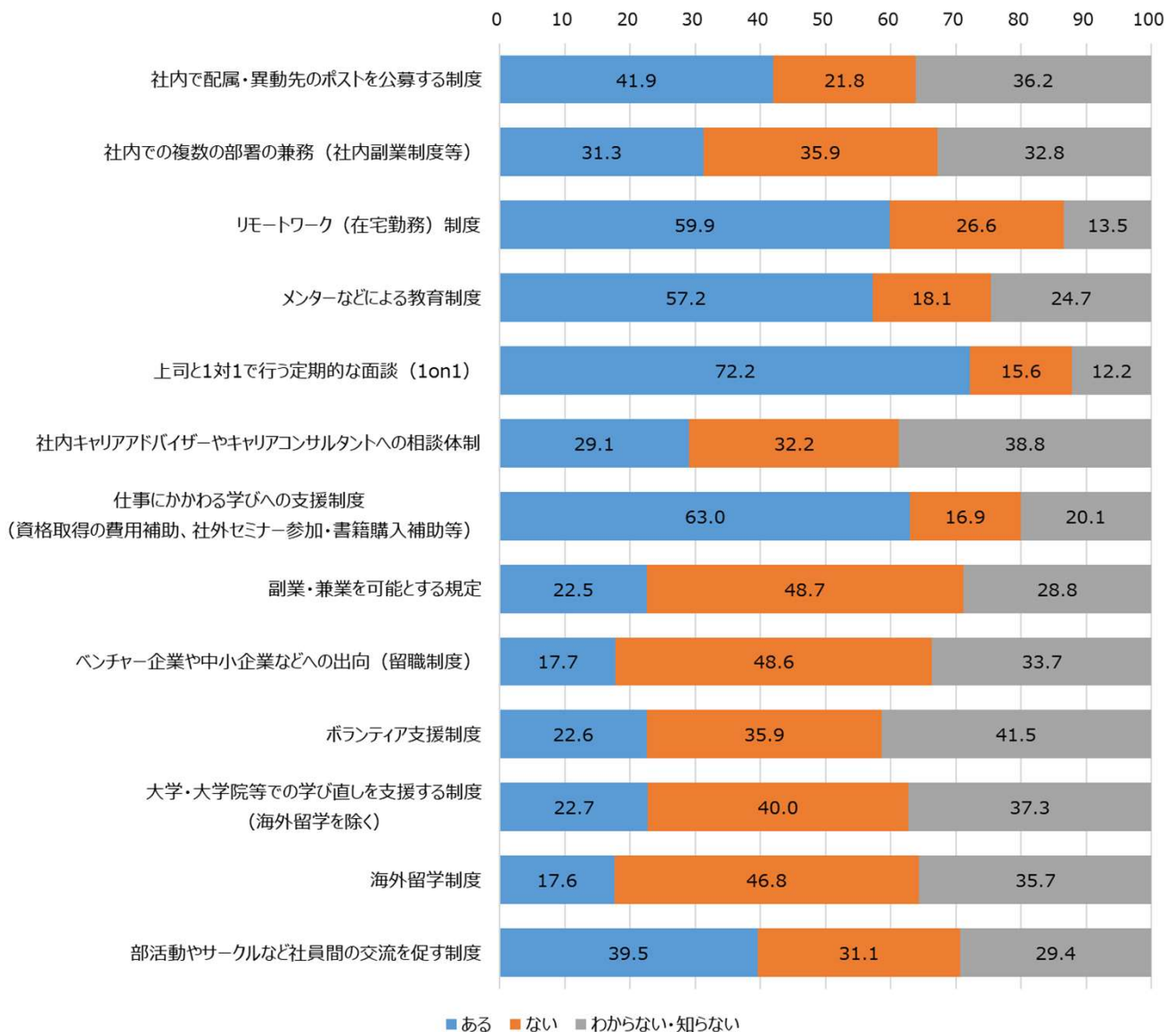
2-1) 社内の育成など制度の有無認識 (第一時点調査)

- ・所属する会社における育成などに関する制度・施策について質問した結果を集計した。
(※以降の集計では主対象の性別を人口動態と合致するようウェイトバックして実施している)
- ・「上司と1対1で行う定期的な面談 (1on1)」の「ある」が72.2%と最も多く、「海外留学制度」の「ある」が17.6%と最も少ない。
- ・「わからない・知らない」という回答も、「ボランティア支援制度」の41.5%をはじめ高い割合を占めていた。

【設問文】

Q あなたの現在所属する会社で以下のような制度・施策がありますか。あなたが現在所属する会社の人事や働き方に関する制度について伺います。(副業をされている方は、本業の仕事・職場についてお答えください)

●所属する会社における育成などに関する制度・施策の有無認識 (%)



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

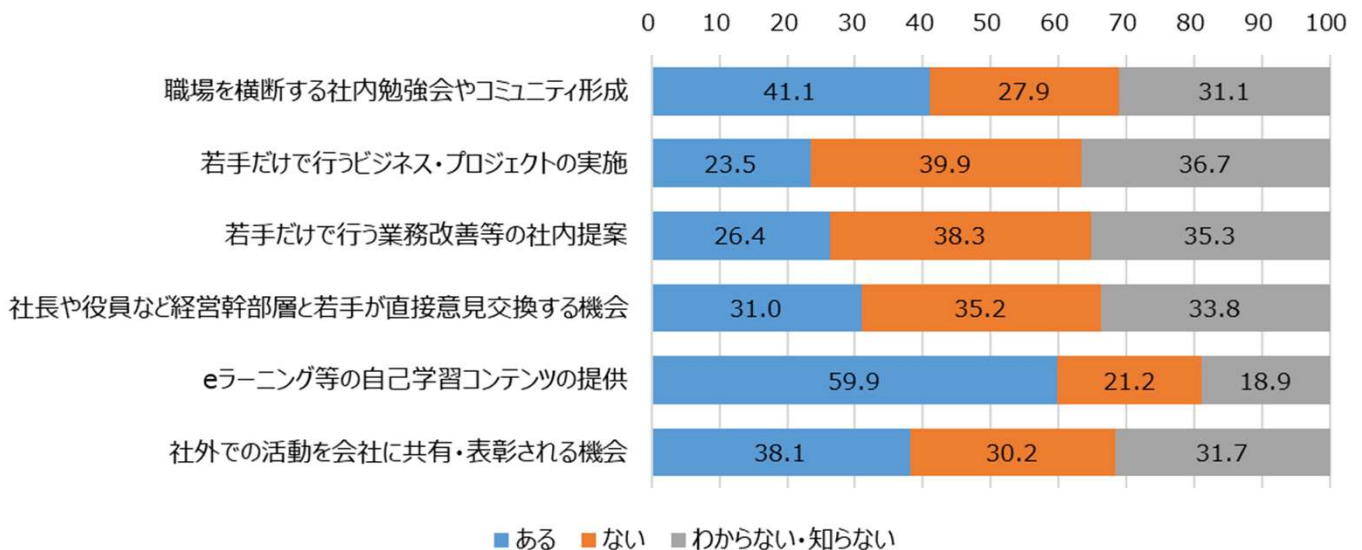
2-2) 社内の育成などの取り組みの実施有無認識 (第一時点調査)

- ・所属する会社における育成などに関する取り組みについて質問した結果を集計した。
- ・「eラーニング等の自己学習コンテンツの提供」の「ある」が59.9%と最も多く、「若手だけで行うビジネス・プロジェクトの実施」の「ある」が23.5%と最も少ない。
- ・「わからない・知らない」という回答も、「若手だけで行うビジネス・プロジェクトの実施」の36.7%をはじめ高い割合を占めていた。

【設問文】

Q あなたの現在所属する会社で以下のような取組がありますか。

● 所属する会社における育成などに関する取り組みの有無認識 (%)



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

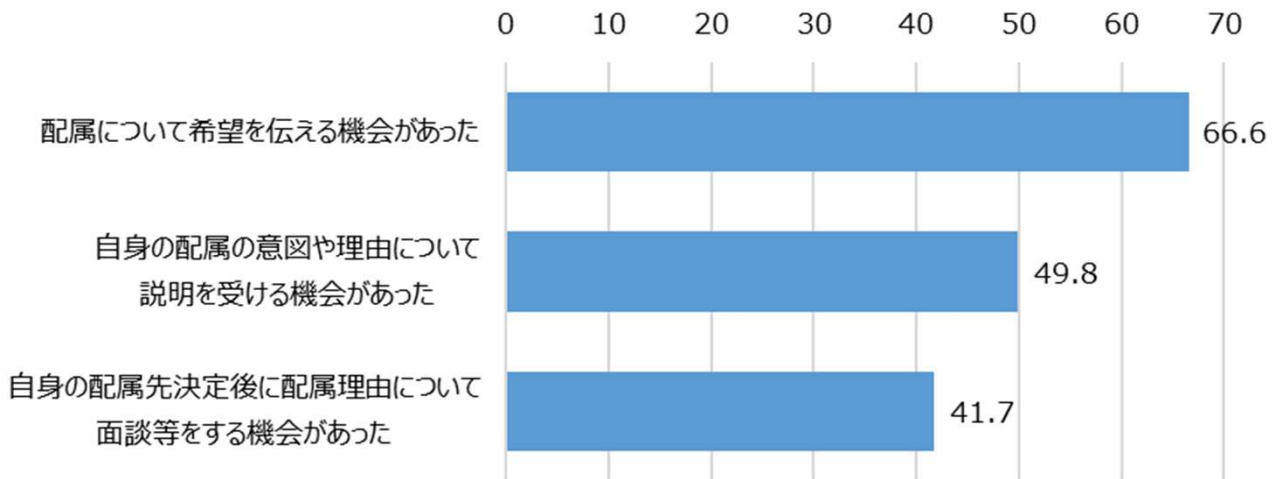
2-3) 初任配属についての状況（第一時点調査）

- ・初任配属時の所属企業とのやりとりについて質問した。
- ・「配属について希望を伝える機会があった」は66.6%、「自身の配属の意図や理由について説明を受ける機会があった」は49.8%、「自身の配属先決定後に配属理由について面談等をする機会があった」は41.7%であった。

【設問文】

Qあなたがこれまで経験した、配属や異動の際のやりとりについて伺います。あなたが新卒入社後最初の配属の際に、人事や上司等とどのようなやりとりがされましたか。

●初任配属についての状況（%）（複数回答）



※2019年～2021年に就職した者
 ※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

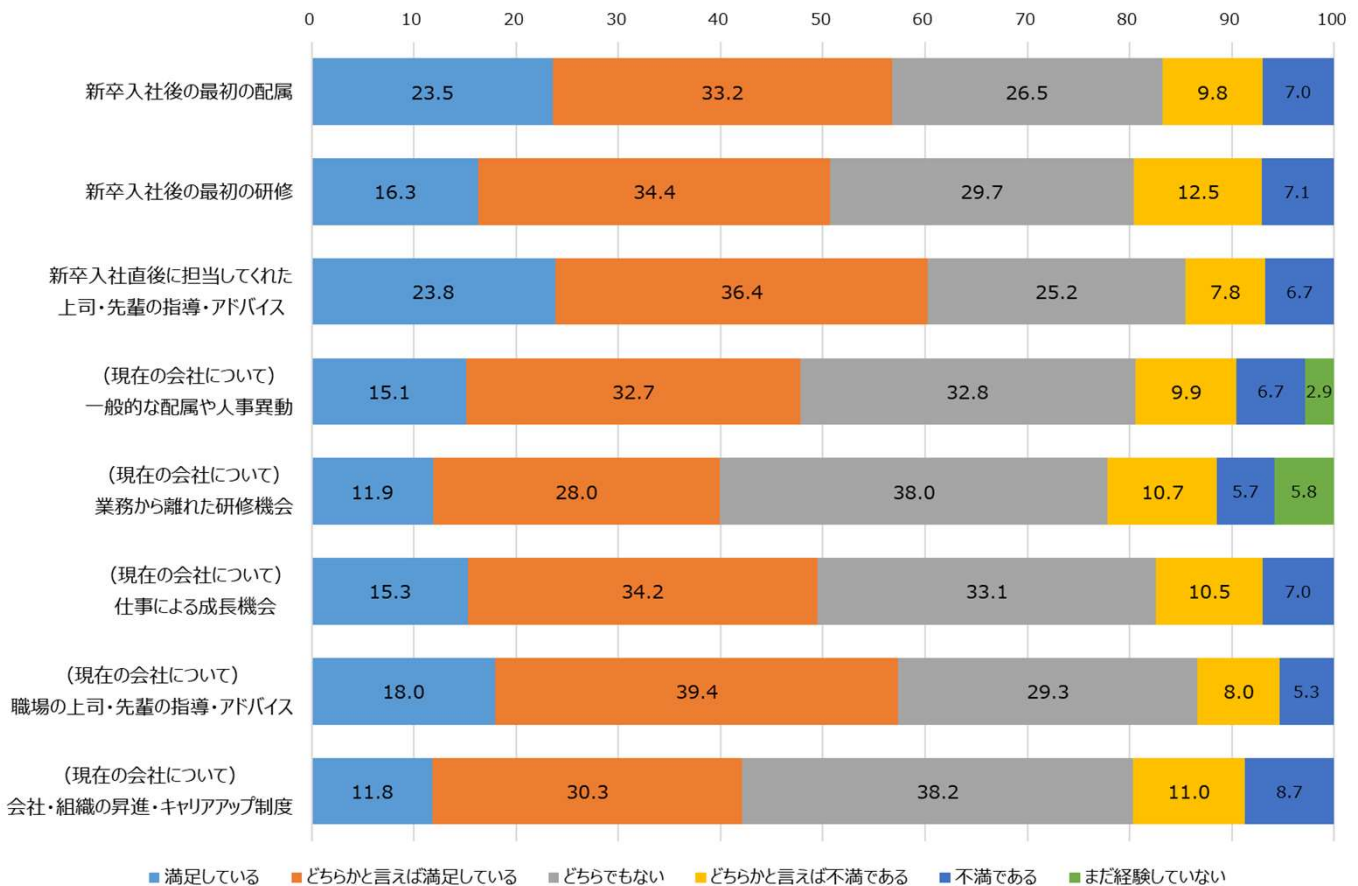
2-4) 配属・研修など施策の満足度（第一時点調査）

- ・配属・研修など施策の満足度について質問した。
- ・「新卒入社後の最初の配属」については、「満足している」が23.5%、「どちらかと言えば満足している」が33.2%と、合わせて56.7%が満足と回答。「不満である」は7.0%、「どちらかと言えば不満である」は9.8%にとどまっている。
- ・「新卒入社後の最初の研修」については、「満足している」が16.3%、「どちらかと言えば満足している」が34.4%と、合わせて50.7%が満足と回答。「不満である」は7.1%、「どちらかと言えば不満である」は12.5%にとどまっている。

【設問文】

Q あなたの以下のこれまでの経験について、それぞれ満足度をお答えください。4-8番目については転職経験がある方は現在の会社についてお答えください。

● 配属・研修など施策の満足度（%）



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

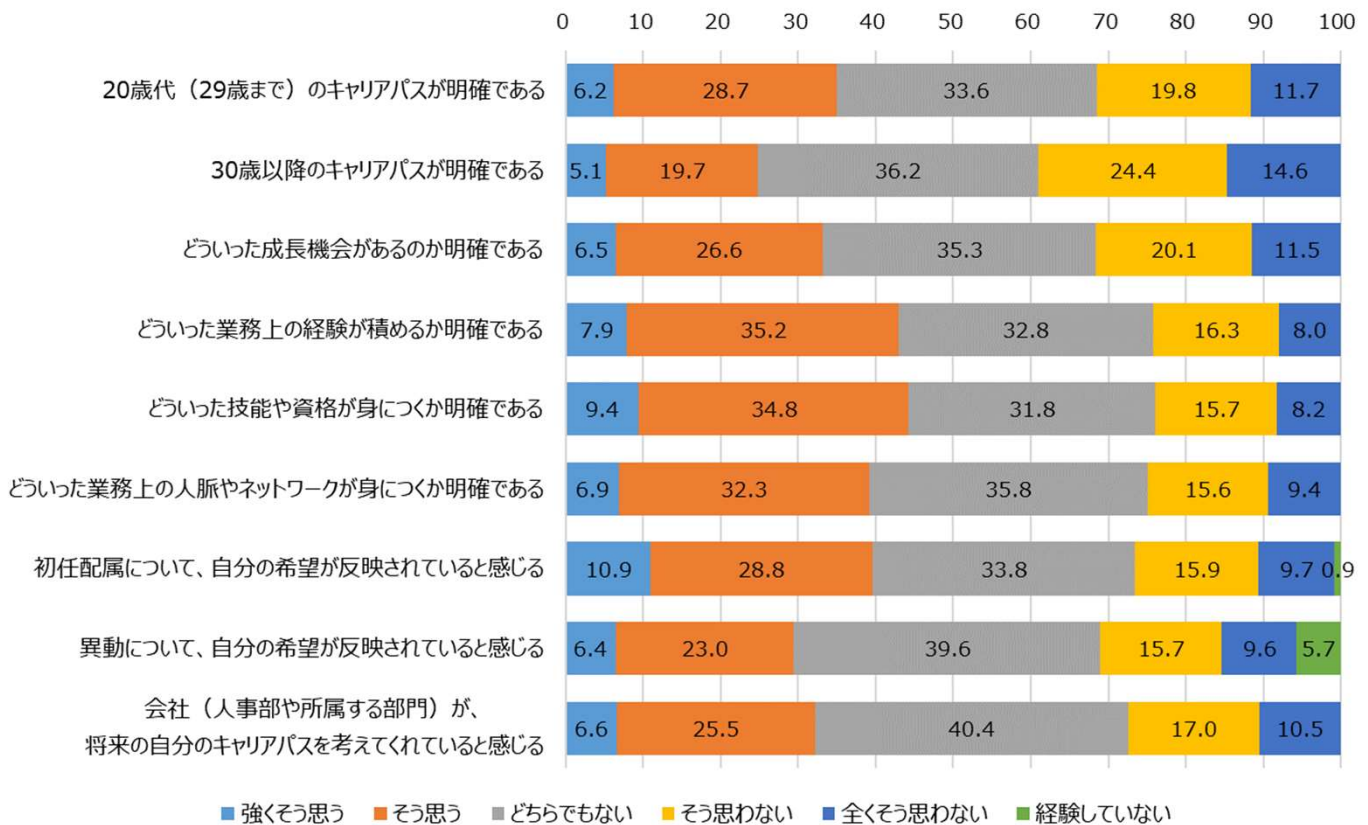
2-5) 職業生活の状況認識 (第一時点調査)

- ・キャリアパスや成長機会など、現在の職業生活の状況認識について質問した。
- ・「20歳代（29歳まで）のキャリアパスが明確である」について「強くそう思う」は6.2%、「そう思う」は28.7%であり、「どちらでもない」が33.6%、「そう思わない」19.8%、「全くそう思わない」は11.7%となり、そう思う・どちらでもない・そう思わないの比率が概ね1：1：1となっている。
- ・ほかの質問でも多少の増減はあるが、全項目においてそう思うとそう思わないの双方が一定数存在している。

【設問文】

Q あなたの現在の会社での職業生活について、一番近いと感じるものを選んでください。（副業をされている方は、本業の仕事・職場についてお答えください）

●職業生活の状況認識 (%)



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

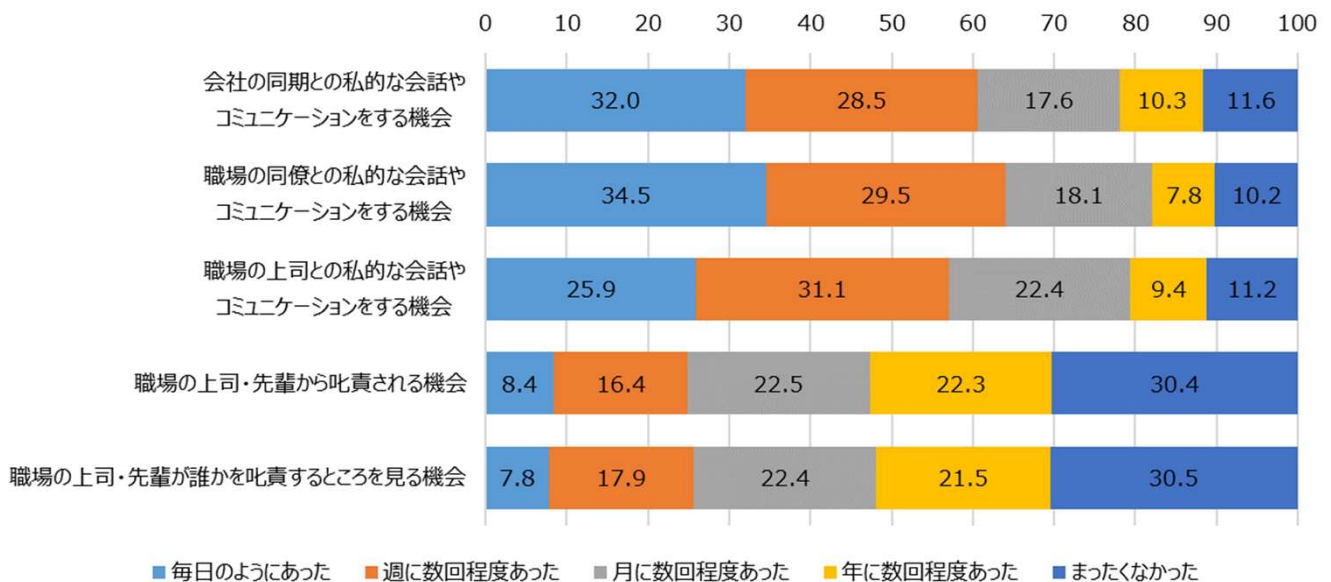
2-6) 職場でのコミュニケーション (第一時点調査)

- ・現在の職場でのコミュニケーションについてそれぞれの頻度を質問した。
- ・「会社の同期との私的な会話やコミュニケーションをする機会」は、「毎日のようにあった」が32.0%、「週に数回程度あった」28.5%、「月に数回程度あった」17.6%、「年に数回程度あった」10.3%、「まったくなかった」が11.6%であった。
- ・また、「職場の上司・先輩から叱責される機会」については、「まったくなかった」が30.4%、「年に数回程度あった」が22.3%で、合わせて52.7%がほとんどなかった状況である。

【設問文】

Q 現在、まわりの人と以下のような機会はどの程度ありますか。(対面の会話だけでなく、電話やメール、アプリを使ったオンラインでのやりとりも含みます)

●職場でのコミュニケーション (%)



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

3-1) 現在取り組んでいる活動（第一時点調査）

- ・現在、職場外などで取り組んでいる活動について質問した。
- ・「所属する企業・組織外の人との勉強会への参加」が最も高く9.5%であったが、全体として活動経験割合は低く、「あてはまるものはない」が73.7%であった。

【設問文】

Q 現在、取り組んでいるものをお答えください。

●現在取り組んでいる活動（%）（複数回答）

	取り組んでいる
株式会社やNPO、法人等の設立・運営	3.2
所属する企業・組織外の人との勉強会の主催	4.5
所属する企業・組織外の人との勉強会への参加	9.5
大学、専門学校等への通学（学び直し）	4.7
ボランティア活動（社会福祉・文化振興・災害復興など）	6.3
所属する企業・組織外のビジネスプランコンテストへの参加	4.7
プロボノ活動（職業上保有する知識・スキルを活かしたボランティア）	3.7
町内会・自治会等の地域活動	4.2
収入を伴う副業・兼業	7.1
収入を伴わない副業・兼業	4.4
あてはまるものはない	73.7

※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

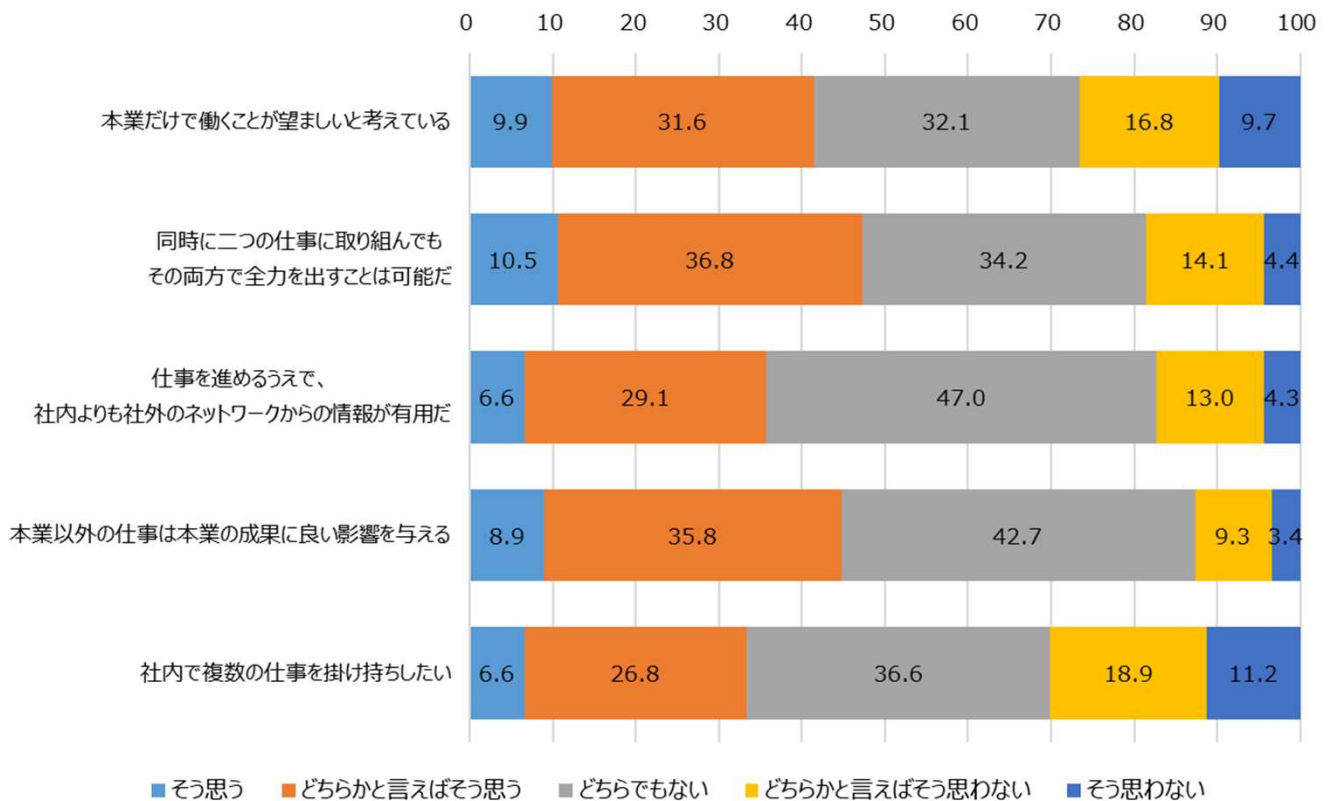
3-2) 社外での活動についての認識 (第一時点調査)

- ・職場外などで取り組む活動についての認識を質問した。
- ・例えば、「本業だけで働くことが望ましいと考えている」については、「そう思う」が9.9%、「どちらかと言えばそう思う」は31.6%であったほか、「どちらでもない」は32.1%、「どちらかと言えばそう思わない」16.8%、「そう思わない」9.7%となっている。

【設問文】

Q あなたの考えに最も近いものを選んでください。

● 社外での活動についての認識 (%)



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

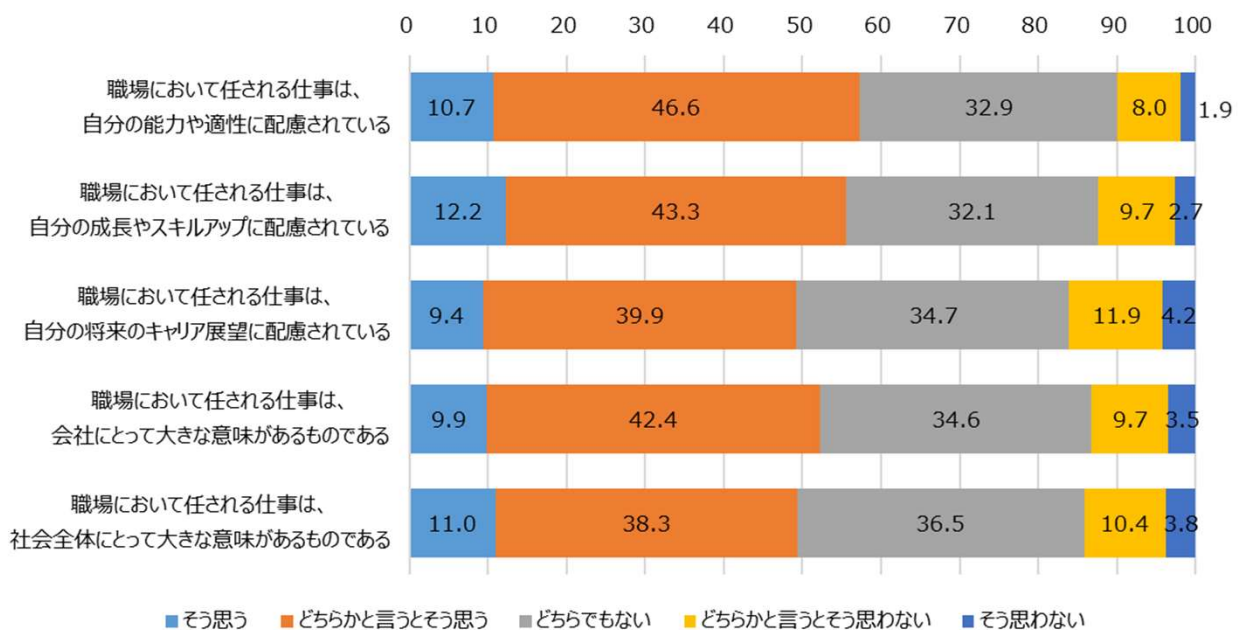
4-1) 職場の上司・先輩との関係① (第一時点調査)

- ・職場の上司や先輩との関係について質問した。
- ・上の図表は、職場において受ける業務のアサインメントについての回答である。ほとんどの項目で配慮・意義のあるアサインメントがされている（回答におけるそう思う計）回答者が過半数を超えている。
- ・下の図表は、職場の上司・先輩との関係についての回答である。仕事の相談からアドバイスまでほとんどの項目であてはまるとする回答が過半数を超えており、上司・先輩が様々なサポートを実施していることがわかる。

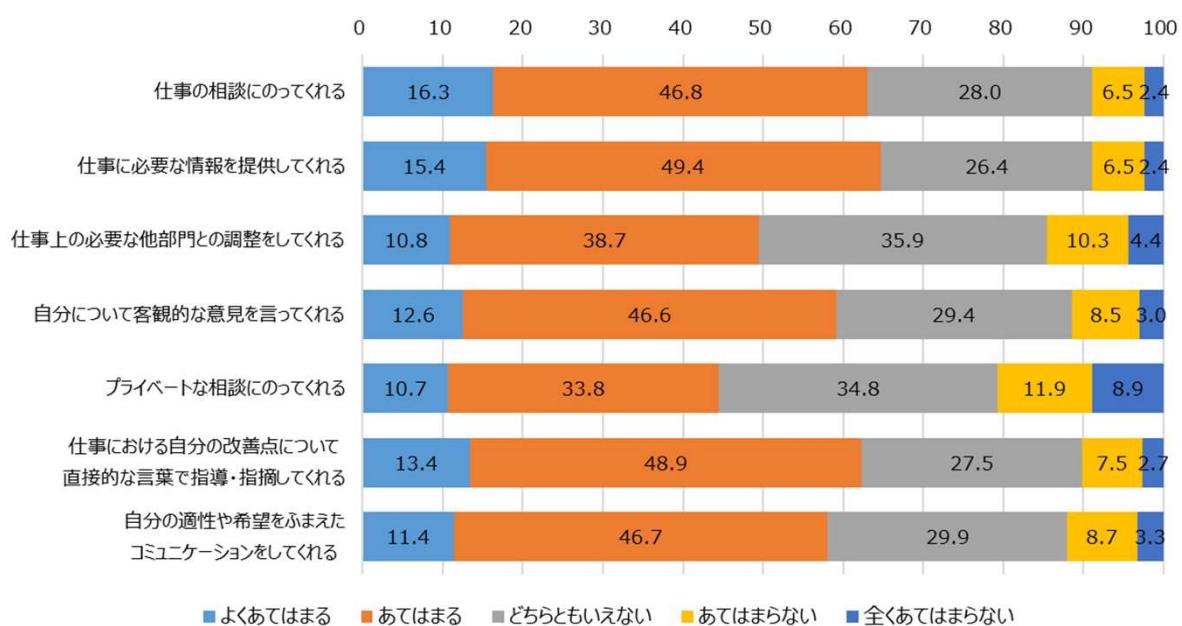
【設問文】

- Q 現在のあなたの考えとして最も当てはまるものを選んでください。
Q 日々の仕事をしていく上で、職場の上司や先輩はあなたとどのように関わっていますか。

●アサインメント認識 (%)



●職場の上司・先輩との関係 (%)



※2019年～2021年に就職した者※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

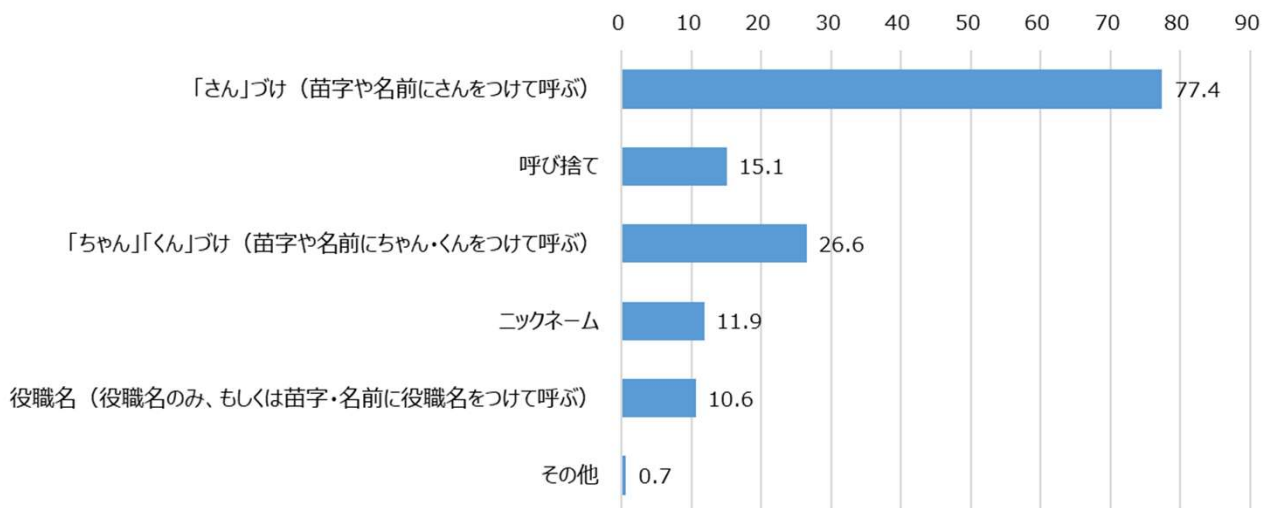
4-2) 職場の上司・先輩との関係② (第一時点調査)

- ・職場の上司や先輩との関係について、回答者の呼称を聞いた。
- ・「『さん』づけ」が77.4%と著しく多かった。
- ・「呼び捨て」が15.1%、「『ちゃん』『くん』づけ」が26.6%、「ニックネーム」11.9%、「役職名」10.6%であった。
- ・回答者が所属する大手企業では「さん」づけで呼ばれる若手が8割近くと多数を占め、一般的であることがわかる。

【設問文】

Q あなたの職場の上司・先輩は、あなたをどう呼んでいますか（呼び方をすべて選んでください）。

● 上司・先輩からの呼称（%）（複数回答）



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

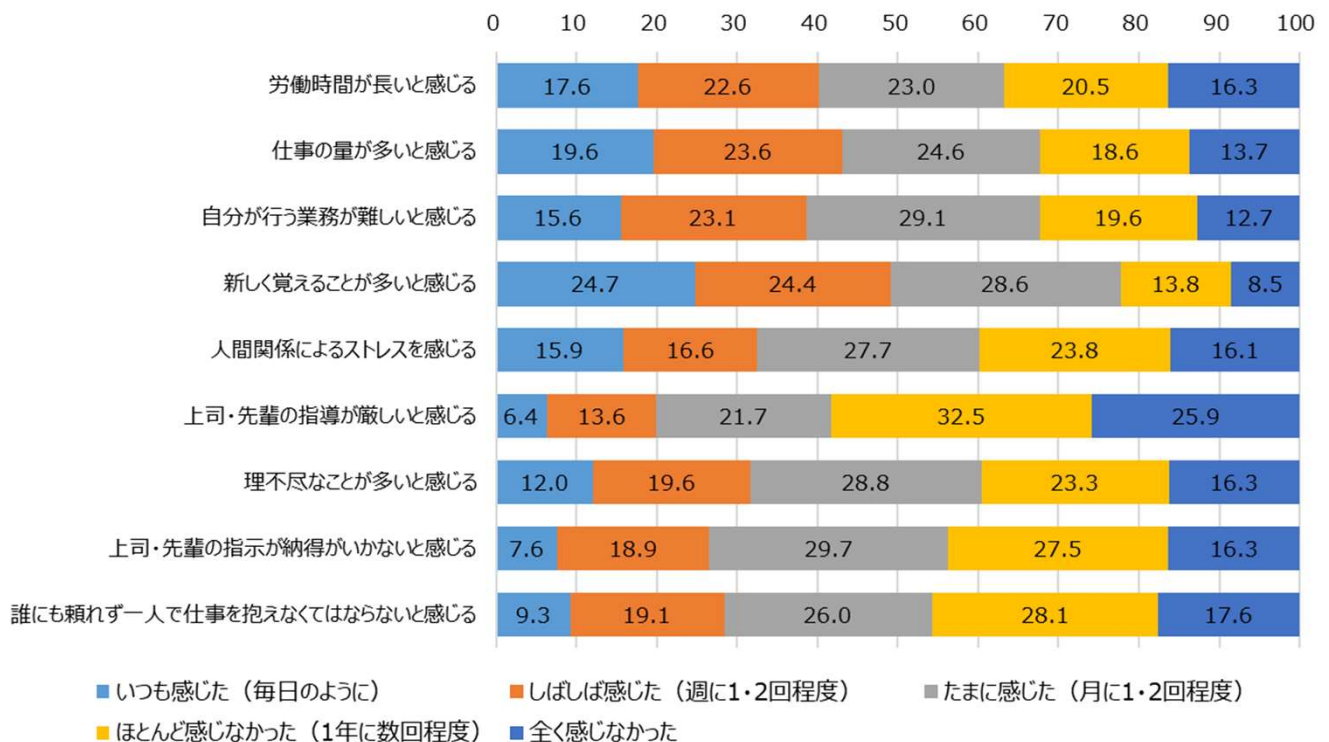
5-1) 職場での労働負荷 (第一時点調査)

- ・職場での労働負荷に関する認識を質問した。
- ・「労働時間が長いと感じる」「仕事の量が多いと感じる」といった量的な負荷については、「いつも」「しばしば」が4割程度、「たまに」が2割強、「ほとんど感じなかった」「全く感じなかった」が3割強と回答が分かれている。
- ・「自分が行う業務が難しいと感じる」「新しく覚えることが多いと感じる」といった質的な負荷については、「いつも」「しばしば」が4割～5割程度であった。
- ・「人間関係によるストレスを感じる」「理不尽なことが多いと感じる」などの関係的な負荷については、「いつも」「しばしば」が3割強である。
- ・一方、「上司・先輩の指導が厳しいと感じる」は合わせて2割であり、ほかの項目と比較して著しく低い。

【設問文】

Q現在のあなたの仕事・職場環境について伺います。(副業をされている方は、本業の仕事・職場についてお答えください)
それぞれの質問について一番近いものを選んでください。

● 職場での労働負荷 (%)



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

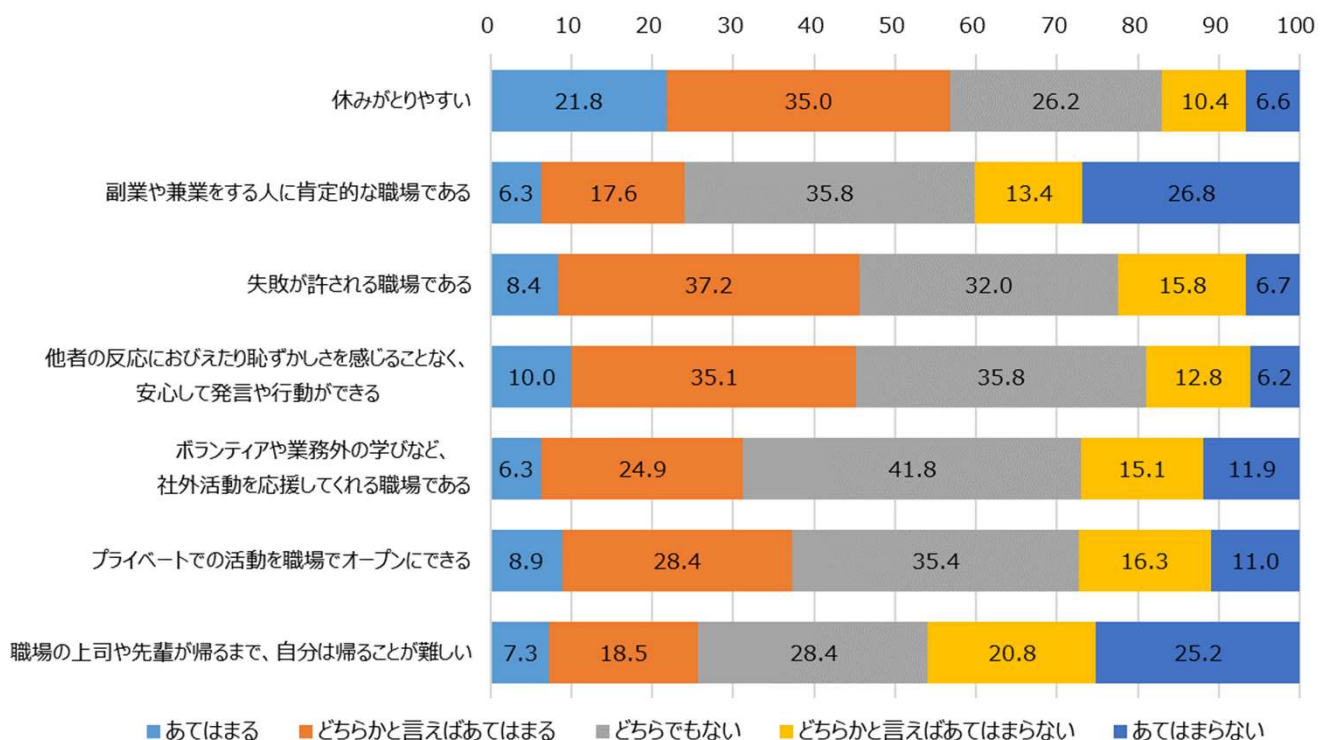
5-2) 職場の心理的環境 (第一時点調査)

- ・現在の職場の心理的環境について質問した。
- ・一部の項目を除いて、肯定的な評価が否定的な評価を上回る結果となっている。
- ・例えば、「休みがとりやすい」では「あてはまる」21.8%、「どちらかと言えばあてはまる」35.0%。一方で、「どちらかと言えばあてはまらない」は10.4%、「あてはまらない」は6.6%にとどまる。
- ・また、「職場の上司や先輩が帰るまで、自分は帰ることが難しい」では、肯定的な評価である「あてはまらない」25.2%、「どちらかと言えばあてはまらない」20.8%。一方で「あてはまる」7.3%、「どちらかと言えばあてはまる」18.5%と、上司や先輩が帰るまで帰れない、という否定的な評価は限定的である。
- ・否定的な評価が多かった項目は「副業や兼業をする人に肯定的な職場である」であり、あてはまらないの合計は、あてはまるの合計よりも高い。

【設問文】

Q 現在の職場環境について、最も近いものを選んでください。

● 職場の心理的環境 (%)



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

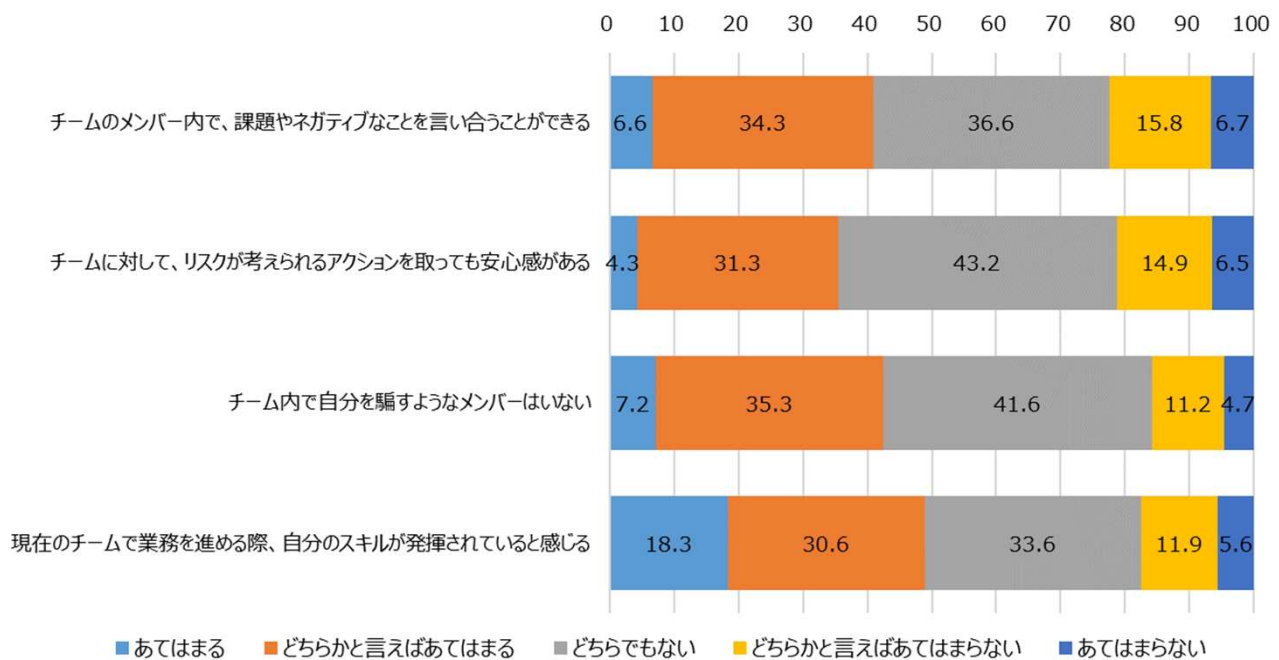
5-3) 職場の心理的安全性 (第一時点調査)

- ・現在の職場の心理的安全性について質問した。
- ・すべての項目で、肯定的な評価 (あてはまる合計) が否定的な評価 (あてはまらない合計) を上回る結果となっている。
- ・例えば、「チームのメンバー内で、課題やネガティブなことを言い合うことができる」については、「あてはまる」6.6%、「どちらかと言えばあてはまる」34.3%。一方で、「どちらかと言えばあてはまらない」15.8%、「あてはまらない」は6.7%であった。

【設問文】

Q 現在の職場環境について、最も近いものを選んでください。

● 職場の心理的安全性 (%)



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

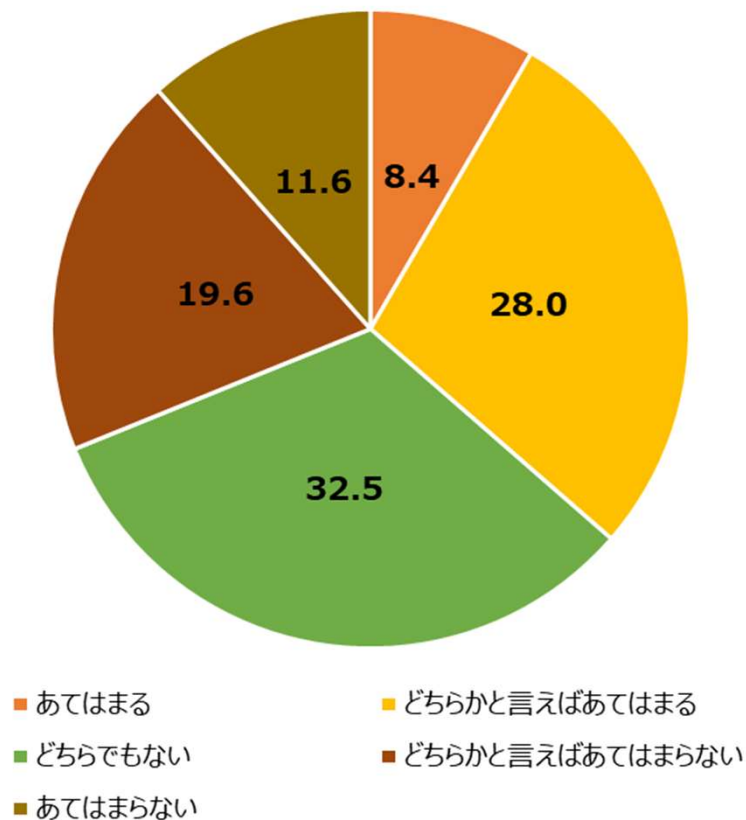
5-4) 職場への認識 (第一時点調査)

- ・現在の職場への認識について質問した。
- ・現在の職場を「ゆるい」と感じるかについて、「あてはまる」は8.4%、「どちらかと言えばあてはまる」は28.0%、「どちらでもない」32.5%、「どちらかと言えばあてはまらない」19.6%、「あてはまらない」11.6%であった。

【設問文】

Q 以下の文章は、現在のあなたの気持ちにどれくらい当てはまりますか。現在の職場を「ゆるい」と感じる。

●現在の職場を「ゆるい」と感じる (%)



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

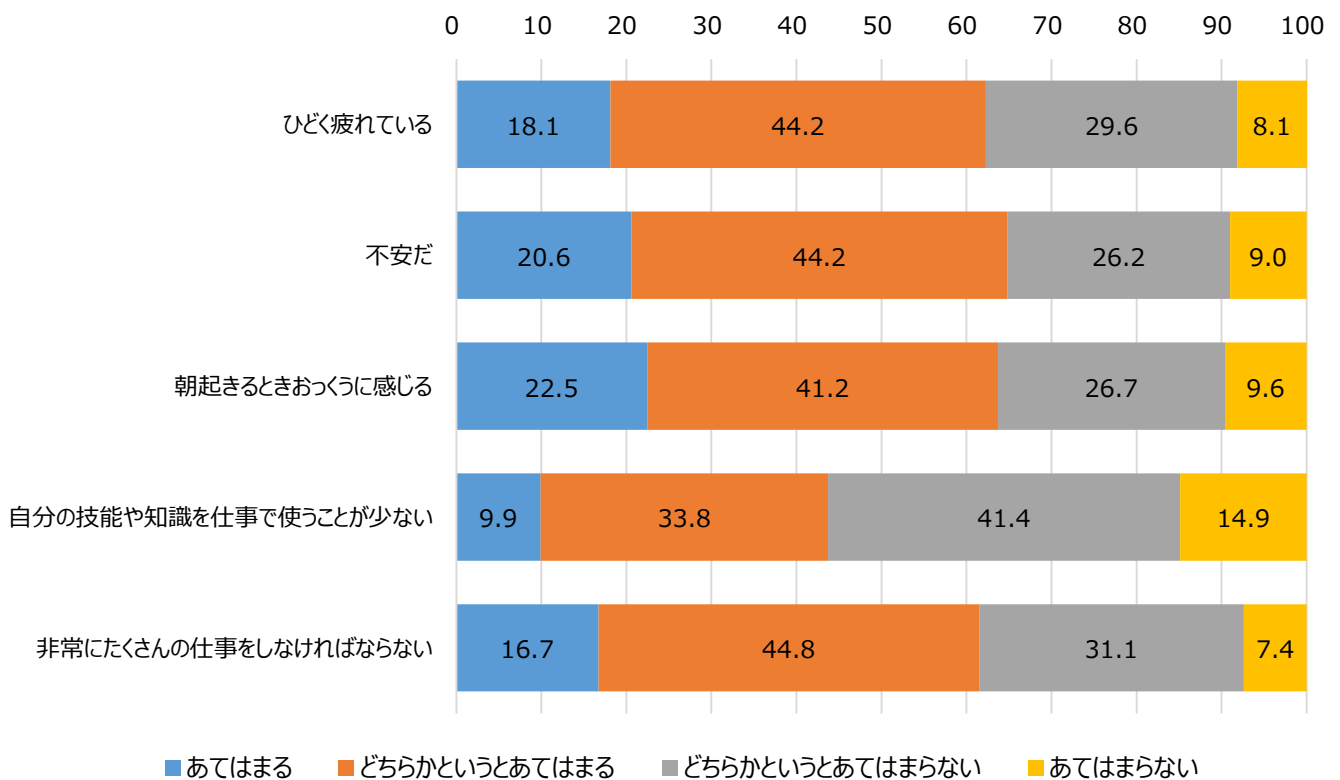
6) ストレスや不安感（第一時点調査）

- ・現在のストレスや不安感について質問した。
- ・例えば、「不安だ」については、「あてはまる」が20.6%、「どちらかというにあてはまる」が44.2%と合わせて64.8%が該当すると回答していた。

【設問文】

Q あなたの現在の状態についておたずねします。もっとも近いものを選んでください。

● ストレス・不安感（%）



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

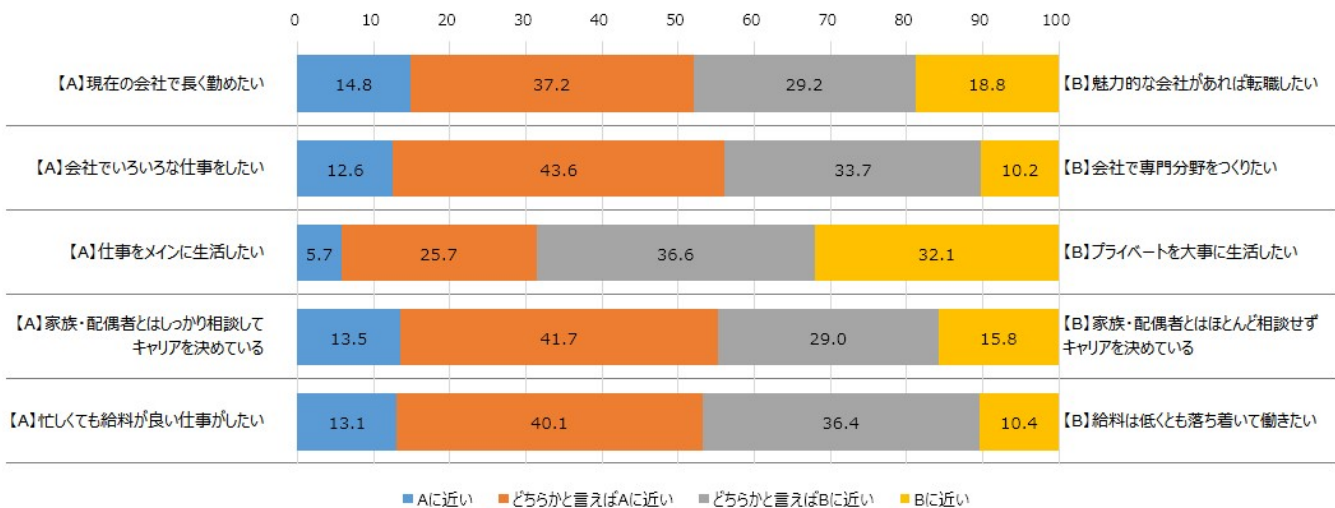
7) キャリアの志向性（第一時点調査）

- ・仕事観やキャリア形成に関する考え方など、キャリアの志向性について質問した。
- ・多くの項目で回答が分かれる結果となっている。
- ・例えば「【A】現在の会社で長く勤めたい」か「【B】魅力的な会社があれば転職したい」か聞いたところ、「Aに近い」14.8%、「どちらかと言えばAに近い」37.2%、「どちらかと言えばBに近い」29.2%、「Bに近い」18.8%となり、Aに近いは合計して52.0%、Bに近いは合計して48.0%であり、ほぼ二分されている。
- ・「【A】仕事をメインに生活したい」か「【B】プライベートを大事に生活したい」かについてののみが、Bの回答者が多い結果（合計68.7%）となっている。

【設問文】

Q 現在のあなたのお考えについて伺います。次の質問について、どちらの考えに近いと感じますか。

● キャリアの志向性（%）



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

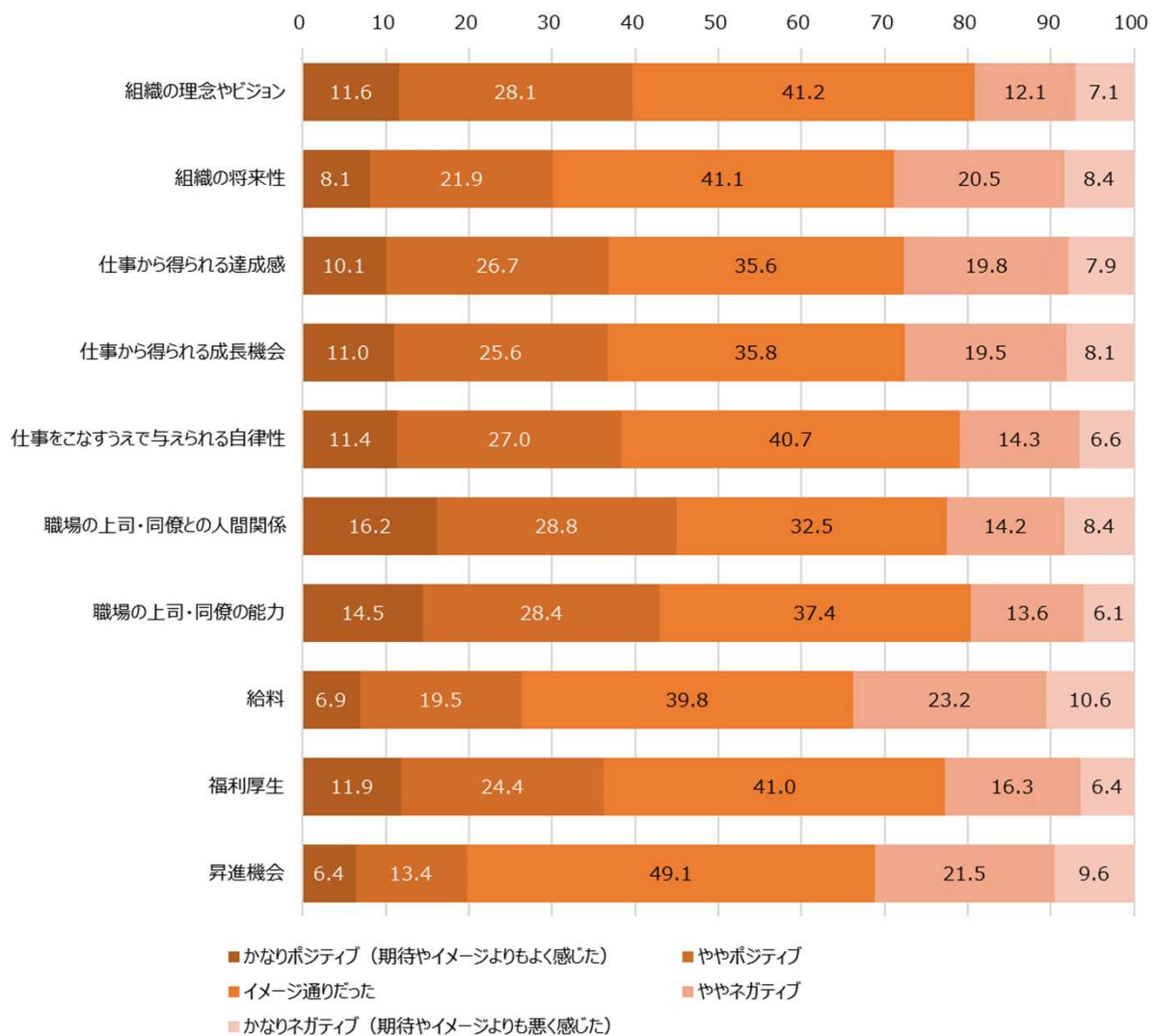
8) リアリティショック (第一時点調査)

- ・最初に就職した会社・職場について、就職活動中や入社前のイメージと比べてどの程度のギャップを感じたか (リアリティショック) について質問した。
- ・ネガティブなギャップの割合が、ポジティブなギャップの割合を上回ったのは、「給料」と「昇進機会」であり、ほかはポジティブなギャップがあったとした割合が上回っていた。
- ・例えば「組織の理念やビジョン」では、「かなりポジティブ」11.6%、「ややポジティブ」28.1%、「イメージ通りだった」41.2%、「ややネガティブ」12.1%、「かなりネガティブ」7.1%であった。

【設問文】

Q 最初に就職した会社・職場について、就職活動中・入社前の期待やイメージと比べて、どの程度ギャップを感じましたか。

●リアリティショック (%)



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

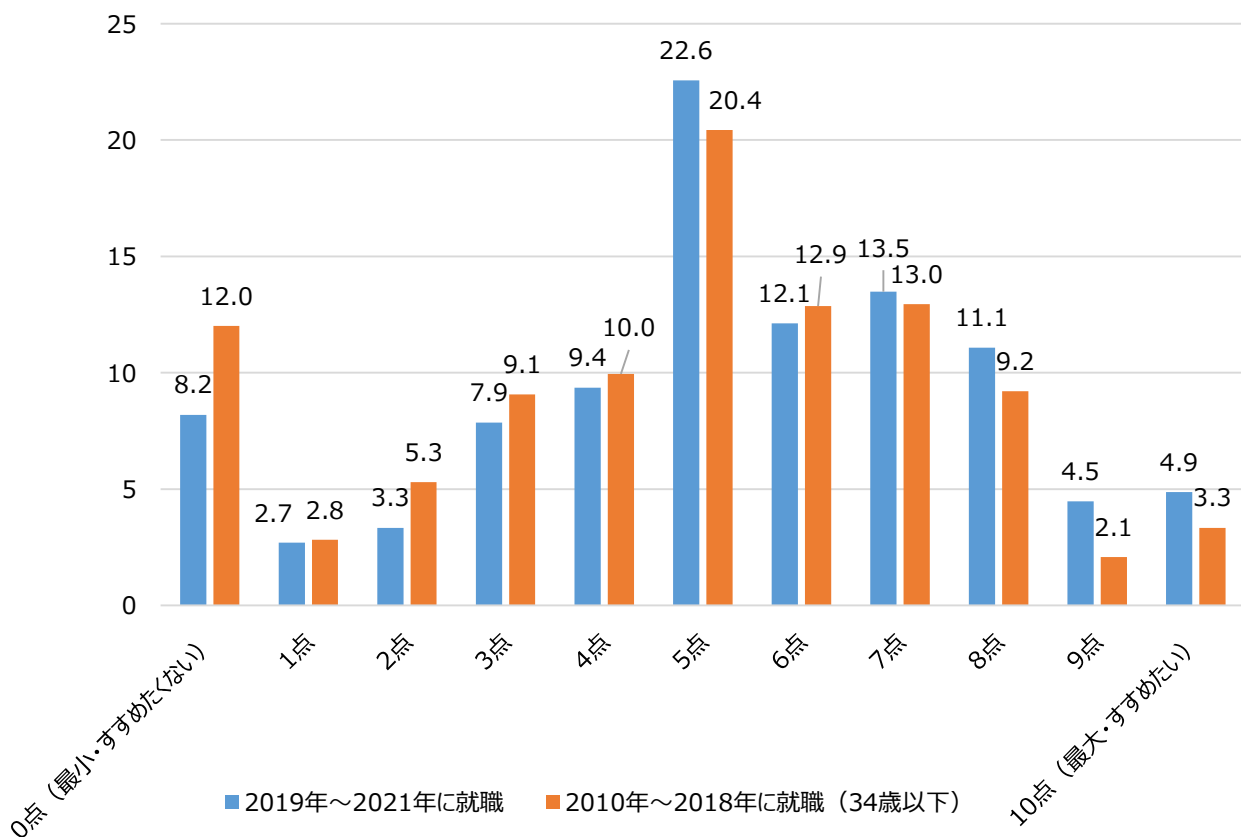
9) 初職の会社への評価 (第一時点調査)

- ・最初に就職した会社・組織についての評価を0点から10点の点数で質問した。
- ・平均点は2019年～2021年に就職 (主対象) で6.28点、2010年～2018年に就職かつ34歳以下で5.76点であった。
- ・また、全体として、2019年～2021年に就職した者は高い点数をつける傾向がみられ、「0点」の割合は8.2% (2010年～2018年に就職では12.0%) である一方で、9点は4.5% (同2.1%)、10点は4.9% (同3.3%) となっている。

【設問文】

Q あなたは最初に就職した会社・組織に就職・転職することを、当時親しい友人や家族にどの程度すすめたいと思いましたか。

● 評価点 (%)



	2019年～2021年 に就職	2010年～2018年 に就職 (34歳以下)
平均点	6.28	5.76

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

10) 学生時代の社会経験（第一時点調査）

- ・学校卒業までに経験した“社会経験”について質問した。
- ・2019年～2021年に就職した者のほうがほぼ全項目において経験率が高い。例えば、「中学・高校時代に、複数の社会人から仕事の話聞く経験」は25.2%、2010年～2018年に就職かつ34歳以下の者では19.8%であった。
- ・社会経験の個数については、経験していない割合は2019年～2021年に就職した者では32.0%（同36.8%）、3個以上経験した割合は同21.2%（同15.8%）であった。

【設問文】

Q あなたが学校卒業まで（就職するまで）に、参加した・実施したことがあるものを全て選んでください。

● 学生時代の社会経験（%）

	2019年～2021年 に就職	2010年～2018年 に就職（34歳以下）
中学・高校時代に、複数の社会人から仕事の話聞く経験	25.2	19.8
複数の企業・職場の見学	39.8	37.8
複数の企業や社会人が参加するイベントの主催・運営	17.6	16.5
期間が1か月以上にわたる長期のインターンシップ	12.2	9.2
起業や法人設立の経験	3.6	3.0
ビジネスプランコンテストやハッカソンへの参加	4.5	2.6
知人ではない多人数の前でのプレゼン・スピーチ	11.8	11.5
営業のアルバイトなど、企業に商品・サービスを売る経験	7.4	7.8
ゼミ・研究室で行った学外の社会人と連携して行う活動	15.7	11.1
地域や会社と連携して行う講義・授業	8.4	5.2
社会人と一緒のチームで成果を出すプロジェクト・活動	6.6	3.8
あてはまるものはない	32.0	36.8

● 学生時代の社会経験の個数

	2019年～2021年 に就職	2010年～2018年 に就職（34歳以下）
経験していない	32.0	36.8
1個経験した	29.8	28.9
2個経験した	17.0	18.5
3個以上経験した	21.2	15.8

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

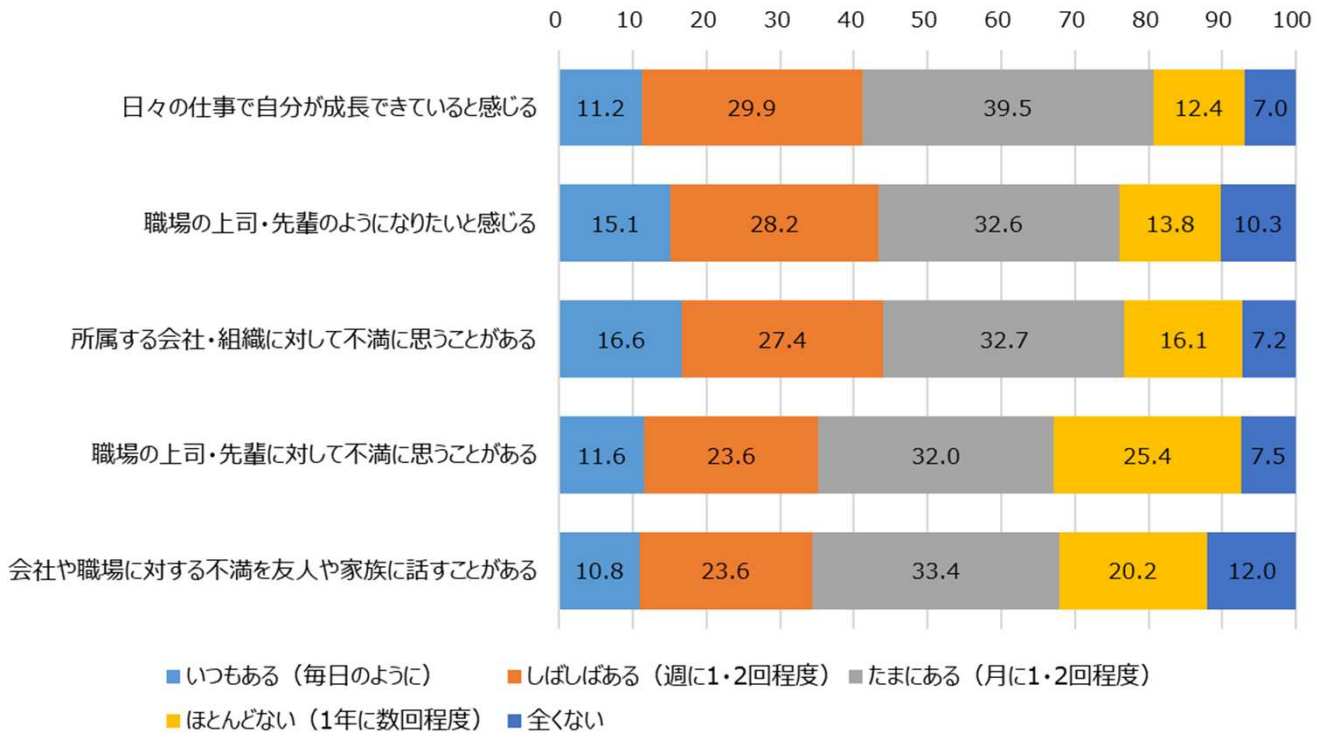
11) 職場での成長実感など（第二時点調査）

- ・職場での成長実感や不満感について質問した。
- ・「日々の仕事で自分が成長できていると感じる」については、「いつもある（毎日のように）」11.2%、「しばしばある（週に1・2回程度）」29.9%、「たまにある（月に1・2回程度）」39.5%、「ほとんどない（1年に数回程度）」12.4%、「全くない」7.0%であった。
- ・また、「所属する会社・組織に対して不満に思うことがある」と「職場の上司・先輩に対して不満に思うことがある」を比較すると、「いつもある」「しばしばある」の割合は、会社・組織に対するものが多い。

【設問文】

Q 以下の質問について、最も近いものを選んでください。（副業をされている方は、本業の仕事・職場についてお答えください）

● 職場での成長実感など（%）



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

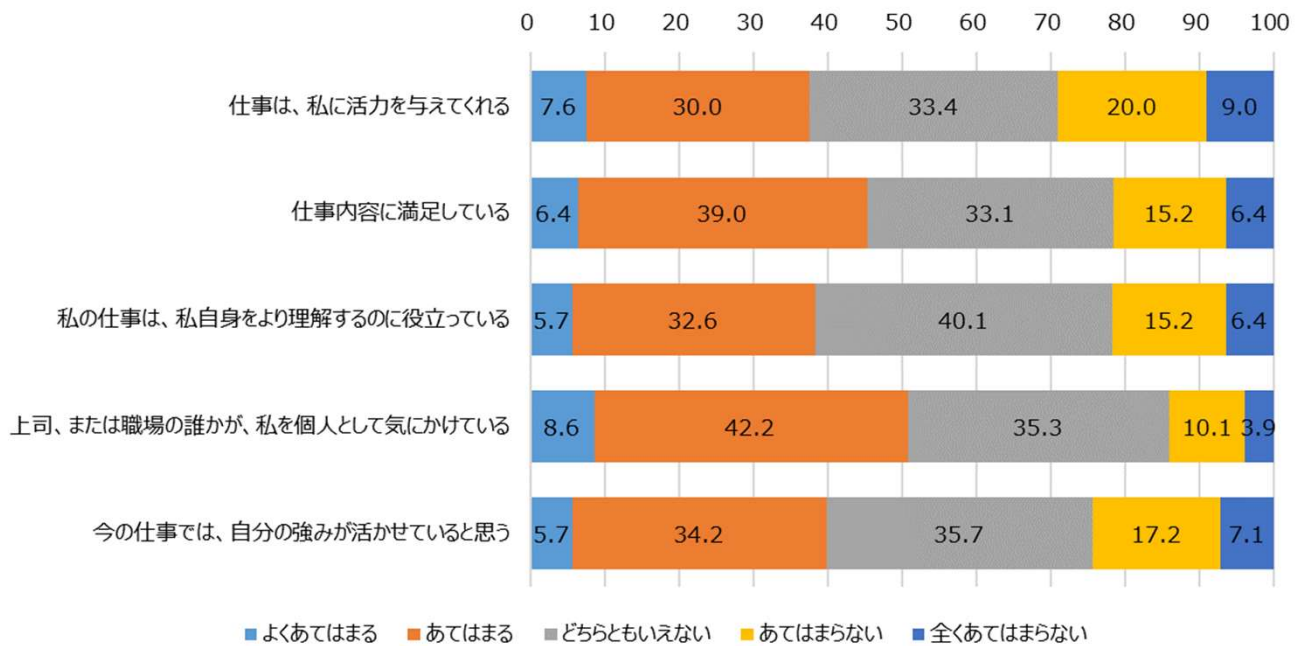
12) いきいき働く（第二時点調査）

- ・“いきいき働く”に関する事項について質問した。
- ・例えば、「仕事は、私に活力を与えてくれる」については、「よくあてはまる」7.6%、「あてはまる」30.0%、「どちらともいえない」33.4%、「あてはまらない」20.0%、「全くあてはまらない」9.0%であった。

【設問文】

Q 以下の各質問に対するあなたの現在の考え方について、最も近いものを選んでください。

● いきいき働く尺度の状況（％）



※ 質問項目の出典はリクルートワークス研究所,2020,働きがいの実態調査2020

※ 2019年～2021年に就職した者

※ 人口動態と合致するようウェイトバックして集計

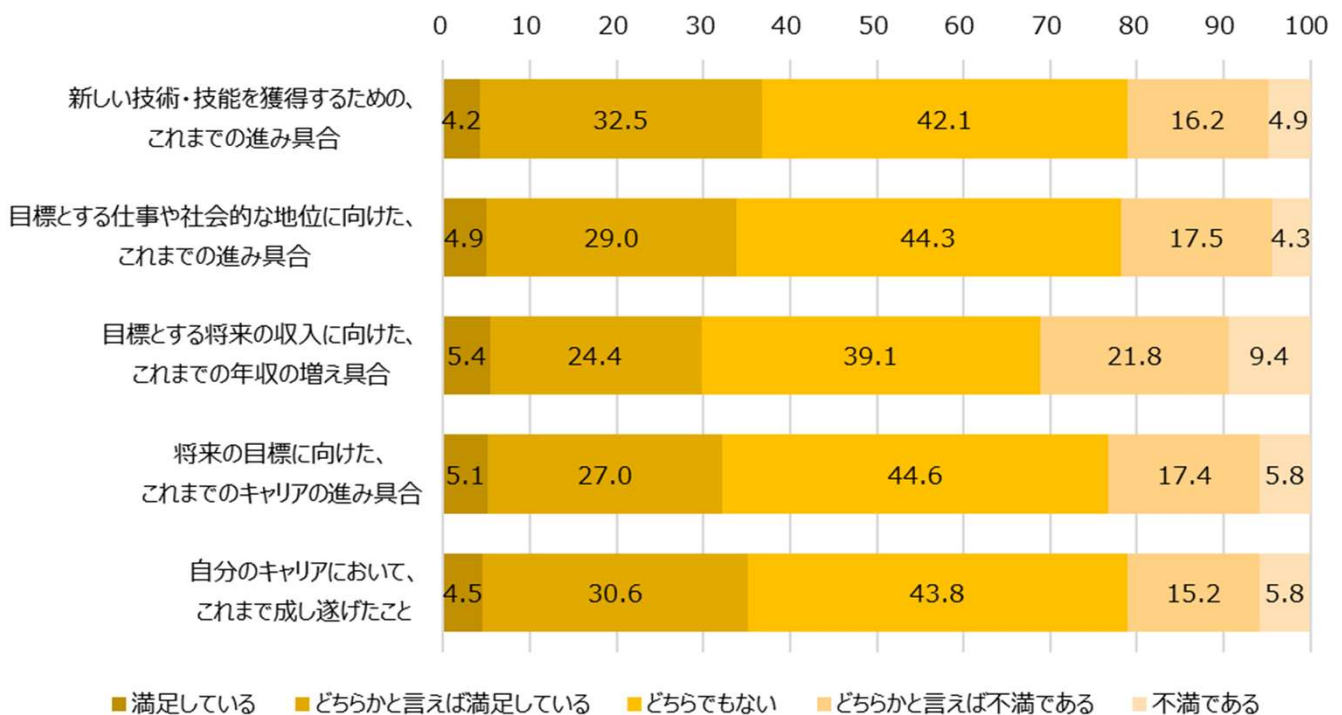
13) キャリアの進捗への満足度（第二時点調査）

- ・仕事やキャリアの進捗度合いに関する満足感について質問した。
- ・例えば、「自分のキャリアにおいて、これまでに成し遂げたこと」については、「満足している」4.5%、「どちらかと言えば満足している」30.6%、「どちらでもない」43.8%、「どちらかと言えば不満である」15.2%。「不満である」5.8%となっている。

【設問文】

Q 現在のあなたの仕事やキャリアに対する満足感について、もっともあてはまるものを選んでください。

● キャリアの進捗への満足度（%）



※質問項目は以下で用いられる尺度を邦訳して作成

Spurk, D., Abele, A. E., & Volmer, J. (2011). The Career Satisfaction Scale: Longitudinal measurement invariance and latent growth analysis. *Journal of Occupational and Organizational Psychology*, 84(2), 315–326

※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

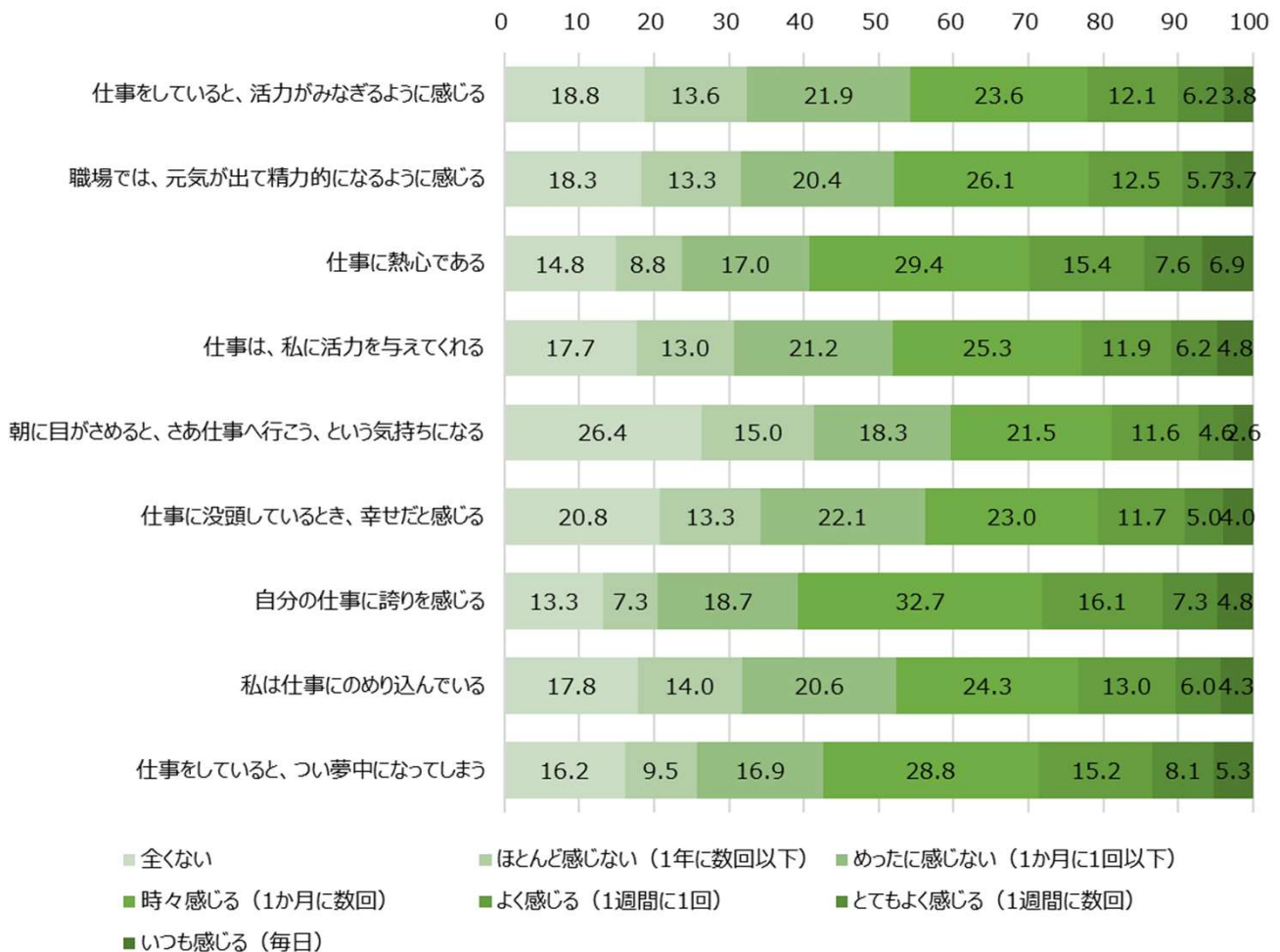
14) ワーク・エンゲージメント（第二時点調査）

- ・ワーク・エンゲージメントについて質問した。
- ・例えば、「仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる」については、「全くない」が18.8%、「ほとんど感じない（1年に数回以下）」13.6%、「めったに感じない（1か月に1回以下）」21.9%と、1か月に1回以下の合計が5割を超えている。また、「時々感じる（1か月に数回）」は23.6%、「よく感じる（1週間に1回）」12.1%、「とてもよく感じる（1週間に数回）」6.2%、「いつも感じる（毎日）」3.8%であった。

【設問文】

Q 次の質問文は、仕事に関してどう感じているかを記述したものです。各文をよく読んで、あなたが仕事に関してそのように感じているかどうかを判断し、回答してください。

●ワーク・エンゲージメント（%）



※質問項目の出典

Shimazu, A., Schaufeli, W. B., Kosugi, S. et al. (2008). Work engagement in Japan: Validation of the Japanese Version of the Utrecht Work Engagement Scale. Applied Psychology: An International Review, 57, 510-523.

※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

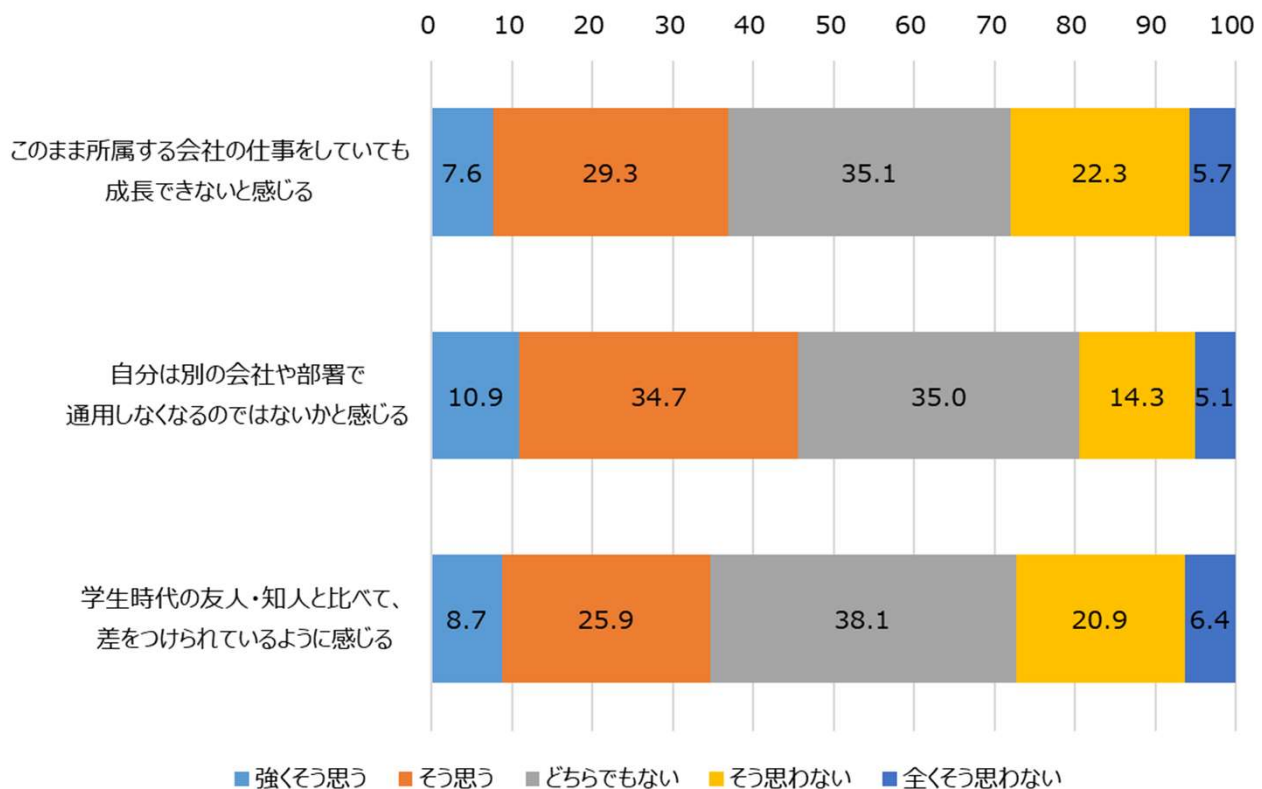
15) キャリアに対する不安感（第二時点調査）

- ・仕事やキャリアに関する不安感について質問した。
- ・「このまま所属する会社の仕事をしていても成長できないと感じる」については、「強くそう思う」が7.6%、「そう思う」が29.3%と、合わせて36.9%がそう思うと回答していた。
- ・「自分は別の会社や部署で通用しなくなるのではないかと感じる」については、「強くそう思う」が10.9%、「そう思う」が34.7%と、合わせて45.6%がそう思うと回答していた。
- ・「学生時代の友人・知人と比べて、差をつけられているように感じる」については、「強くそう思う」が8.7%、「そう思う」が25.9%と、合わせて34.6%がそう思うと回答していた。

【設問文】

Q 日々の仕事に関する以下の質問について、最も近いものを選んでください。

● キャリアに対する不安感（%）



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

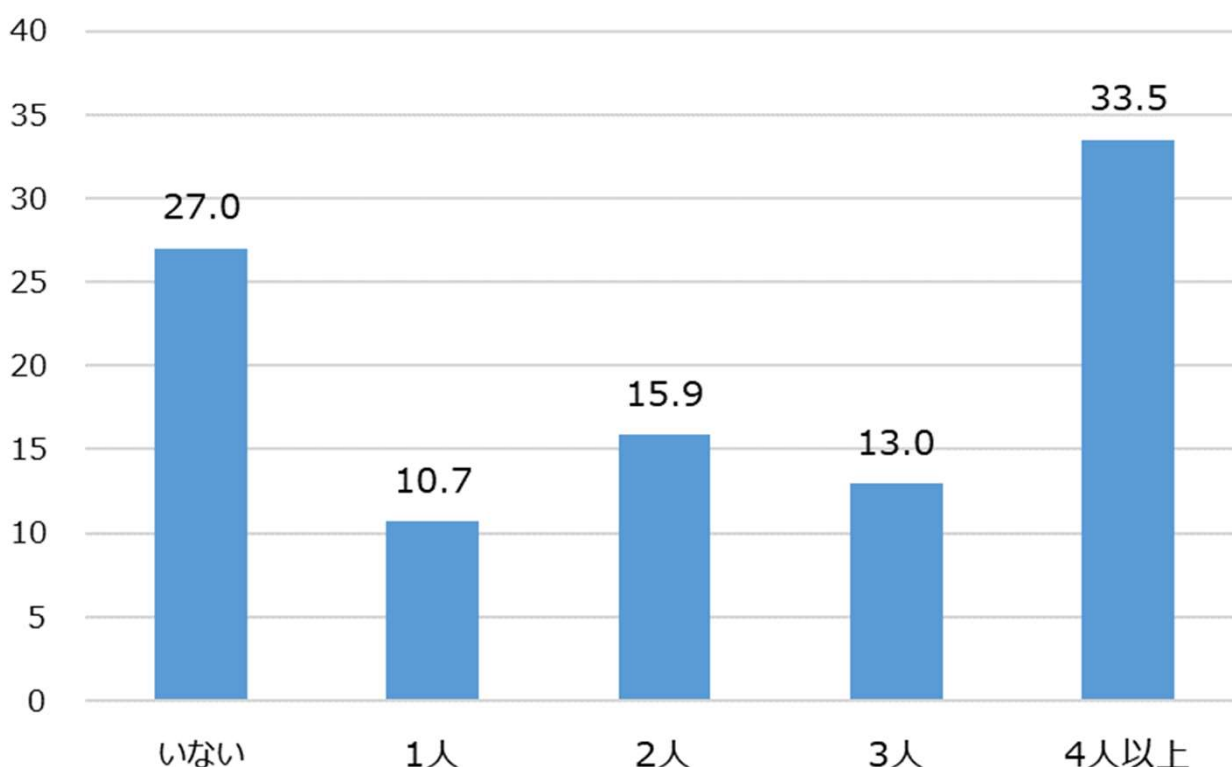
16) ロールモデル (第二時点調査)

- ・家族などを除いて、仕事のやり方や取り組む姿勢について、強く影響を受けた人はいるか聞いた。
- ・「いない」が27.0%おり、4人に1人以上はいなかった。
- ・また、「4人以上」は33.5%おり、3人に1人以上は4人以上のロールモデルがいると回答している。
- ・「いない」も一定割合いる一方で、「4人以上」も一定の割合おり、ロールモデルの有無について若手が異なる状況に置かれている可能性が示唆される。

【設問文】

Q 現在までに、あなたの仕事のやり方や仕事に取り組む姿勢について、強く影響を受けた人はいましたか。家族、友人など仕事に関連しないプライベートな関係の人も含みます。(いない場合には0と記入ください) ※「0～20」人のお答えください。

●ロールモデルの人数 (%)



※2019年～2021年に就職した者
※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

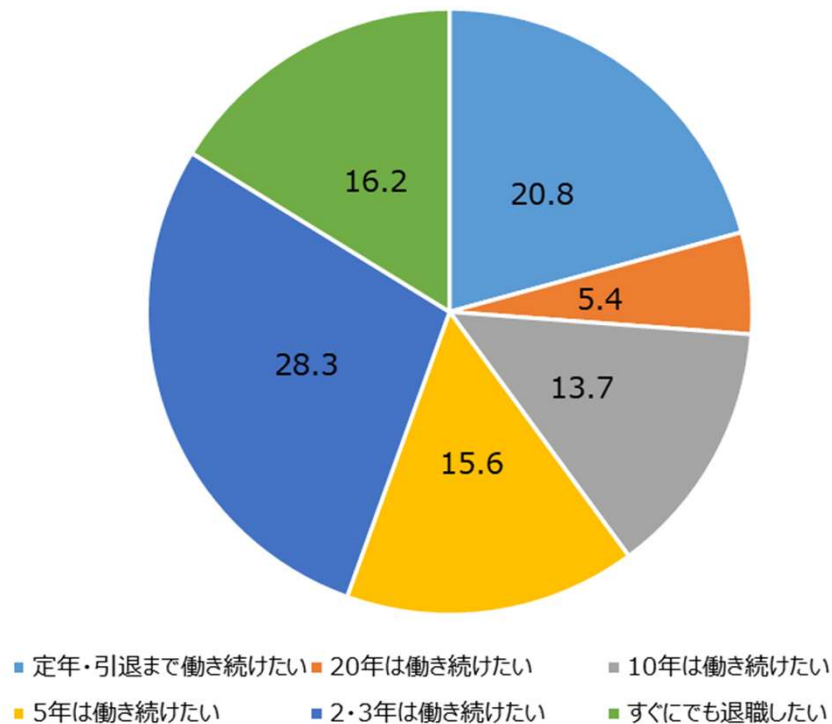
17) いつまでその会社で働きたいか（第二時点調査）

- ・いつまで現在在籍する会社で働きたいかについて質問した。
- ・「定年・引退まで働きたい」は20.8%、「20年は働きたい」は5.4%であった。「10年は働きたい」は13.7%、「5年は働きたい」15.6%、「2・3年は働きたい」28.3%、「すぐにでも退職したい」は16.2%であった。
- ・全体の73.8%が現在の会社で働くのは10年以下の期間であると認識していた。

【設問文】

Q あなたは現在働いている会社・組織で今後、どれくらい働きたいですか。一番近いものを選んでください。

● いつまでその会社で働きたいか（%）



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

18) 労働時間、年収、リモートワーク（第二時点調査）

- ・週労働時間、年収、リモートワーク機会について質問した。
- ・週労働時間は40～44時間が最多で35.5%であった。39時間未満も28.9%で、合わせて44時間以下で64.4%であった。
- ・1年間の収入は300万円～399万円が最多で35.0%であった。
- ・リモートワーク機会について「なかった」は45.8%であり、過半数の回答者には年に数回程度以上の機会があった。「毎日のようにある」は11.1%であった。

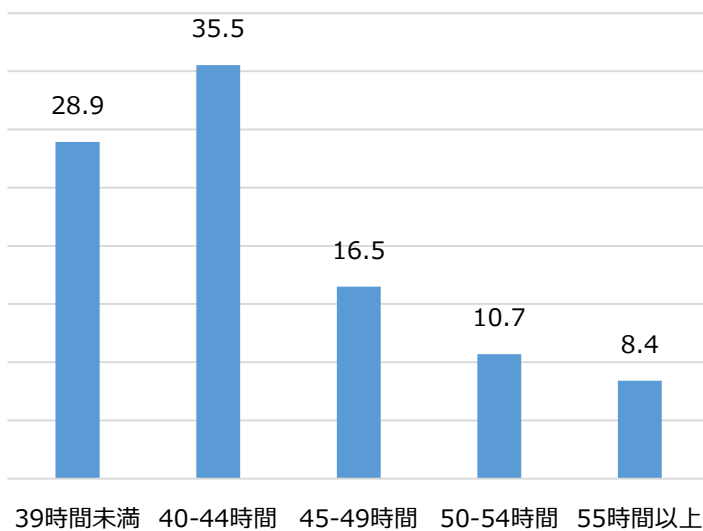
【設問文】

Q 現在における平均的な1週間の労働時間はどれくらいですか。※残業時間（サービス残業も含む）はカウントし、通勤時間、食事時間、休憩時間は除きます。※複数の勤務先で仕事をしている場合は、合計の仕事時間でお答えください。

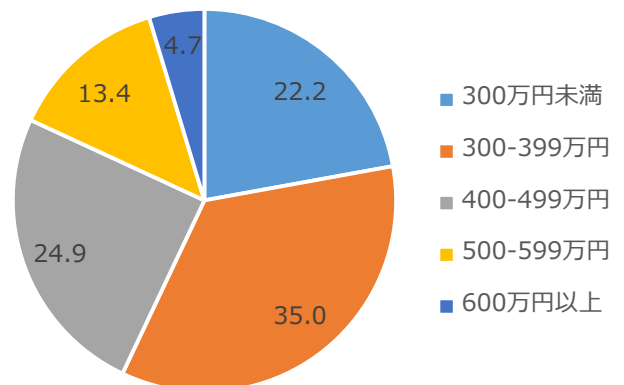
Q 差し支えなければ、昨年1年間（2021年）の収入（税込みの額）を教えてください。※副業・兼業からの収入を含め、賞与・ボーナスも含めてください。

Q 現在、リモートワーク（テレワーク）の機会がありますか。最も近いものを選んでください。

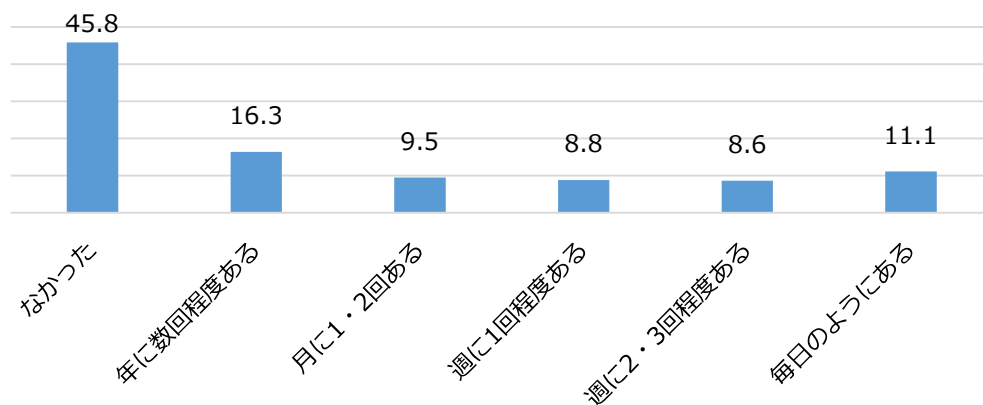
●週労働時間（%）



●昨年（2021年）1年間の収入（%）



●リモートワーク機会（%）



※2019年～2021年に就職した者

※人口動態と合致するようウェイトバックして集計

Works Report 2022

『大手企業における若手育成状況調査報告書』

古屋星斗 リクルートワークス研究所 主任研究員

阪口祐子 リクルートワークス研究所 アソシエイト

篠原由美 リクルートワークス研究所 アシスタント

2022年7月発行

リクルートワークス研究所

〒104-8001

東京都中央区銀座8-4-17

リクルート銀座8丁目ビル

株式会社リクルート

<https://www.works-i.com/>

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

© Recruit Co., Ltd. All rights reserved.